

40. 「明るい配色」についての考察

横浜国立大学芸

藤井 千枝

1. 配色の心理的効果を表現する言語の中,「明るい配

色という表現の仕方がある「明るい配色」とは、如何なる条件を持つ配色をさすのであるか。「明るい配色」を作るには、どのようにすれば出来るか。これまでの文献には、解明の不十分な点が多々ある。そこで「明るい配色」の言語の意味を明らかにし、言語によって表現された配色の意味を容易に具体化出来るような要点を把握したいと考え、この研究を進めたのである。

2. 12基本色を用い、6種の配色型につき、Pure, Tint, Shadeの組合わせによる二色配色を行ない、これを資料として心理実験を行なった。その結果の集計と、平均明度を境として分類し明・暗の度合を定めた資料とを参照して考察を試みた。又、言語の解釈については、国語としての解釈を調べ、配色の意味と比較してみた。

3. 「明るい配色」とは、

- 1) 配色を構成する単独色の明度に関係する。
- 2) 配色に用いる二つの色が、双方共、高明度であるとき、明るい配色が出来る。
- 3) P. と P. T. と T. 何れの組合わせでも作り得る。
- 4) P. と P. の配色においては、黄を一方に配するとき作り得る。
- 5) 純度の高い色を明るいということは、明るいという言語の意味と一致する。殊に、日本語の持つ微妙な味わいと一致していることが見出された。